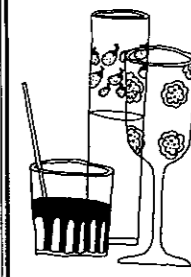


市民談話室



国際障害者年に思う

見習いたい素直な心と一生懸命生きる姿

小石とし子さん

(驚の木新田・農業・25歳)

今年の三月末まで、コロナにいがた白岩の里に勤務し、精神薄弱の人たちと五年間接してきました。

一人ではごはんも食べれないし、排せつもできぬような子らをはじめ、就職間近の人たち、そして巣立っていった人たちがさまざまでした。命の尊さも見てきました。能力的には低くても、精一杯生きていた姿は、ほんとうに美しいものでした。あんなに子供がそのままた人になつたような素直な気持ちの子らを、精進天使などと呼んだものです。

能力の差はだれにもあり、彼らの素直な心と一生懸命生きる姿は、私もこれから見習っていきたくと思っています。国際障害者年なんて何だか妙

な気もしますが、ちよつと能力や体に支障があつても、それはそれとして認め、惜げなんかやり、友だちとして輪を作っていく年始めになることが、お互いの幸せだと思っています。

ます。障害というハンディを持つ人たちが、レクリエーションを通じて地域社会への平等な参加ができるよう、市民とともに楽しめるゲームなどを紹介し、その指導方法を習得してもらおうというものです。

この講習会を通じて、障害者の皆さんと交流し、人間的なふれあいを深めながら、みんなが「障害」ということを考えていきたいと思っています。

(この講習会の詳細は八百の情報センターをご覧ください)

障害者も市民と一緒に楽しめるような社会に

星 行男さん

(次郎右衛門興野・農業・27歳)

私たちの社会は、いろいろな人間の集まりで、人はお互いに助け合つて生きています。市内にも障害をもつ多くの市民がいると聞きます。しかし、催し物や行事の多くは、障害をもつ人が参加できる態勢はとっていないし、また参加していません。国際障害者年ということで、障害者の皆さんだけを集めて楽しい集いを計画するより、市民と一緒に参加できる集いが必要かと思うのです。

私が参加している市レクリエーション協会では、六月二十八日に保健センターで、障害者レクリエーション講習会を開きます。

狭い道路に混雑する自動車。そんなことから手軽に利用できる自転車が、大変増加してきているように思います。その反面、新聞やテレビなどで、交通事故のニュースがたえません。子供たちは学校などで、交通ルール、マナーの指導を受け、よく守っているようです。むしろ大人たちの方が、無理解、認識不足になっているように思います。

子供たちより大人の方が無理解、無認識

田辺トシさん

(下鷲の木・主婦・36歳)

各地区、部落ごとに、親子で気軽に寄り合い、講習会や実技指導などを行うことにより、マナーやルールを身につけ、また時には自転車の点検整備も必要だと思えます。これらによって少しでも事故件数が減ってくればと思います。一言ペンをとりま

お母さんに見守られて歩行訓練

九時、大倉さんの元気の良いミュージックポストで、「奥さん、今何してましたか」「はい、今朝の後始末をして桃の摘みに行こうと思つていたんです。我が桃の里は、今摘みの真っ最中」と、ラジオの音があちこち園地から流れてきます。「梨の花咲く茨曾根、土手の上からながむれば、遠い昔を思い出す、懐かしい村、私の茨曾根」と故人は詩を詠んでいます。清い流れと、土手からながめる風景は、我ながら別天地に思われるくらい美しい。カメラマンがときたま訪れます。梨の茨曾根といわれた歴史は古い。今は桃の生産地として、県下一を誇ります。

第一、第二次と永久転作が強いられ、苗代まで埋められた見渡す限りの造成園地です。大園地整備事業で、地球の彫刻がなされました。「おじ、おばが帰つたらまげるだろう」と老人は言う。村の若者たちは、揺れる農政、行政にびくともせず、農外収入など考えもせず、明日のふるさとづくりを希望を燃やし、意欲的に大自然に向かつて取り組んでいるのです。桃の花が招いていると、後継者も呼んでいます。

私のふるさと自慢

花園から新緑へ 茨曾根は桃の里

美濃川一男さん

(清水・農業・57歳)

朝の静寂を破つて、小鳥がさえずる。五月の夜明けは早い。六時過ぎたころ、防除機の音があちこちの畑から聞こえます。若者たちの活動が始まりました。

私のふるさと自慢

花のふるさと自慢

佐々木信也さん

(田巻信司会長)

プロ野球評論家の佐々木信也さんが、五月二十三日に来市。白根第一中学校グラウンドで市内と味方村、鴻東村の中学生を集め、野球教室を開きました。これは白根ロータリークラブ(田巻信司会長)が企画したもので、佐々木杯の奇蹟のあと、ハンドマイク片手にユーモアを交えながらのコーチ。実際に守備につかせて、適切な指導を与えていました。

来月以降のテーマ
国際障害者年に思う
一九八一年は国際障害者年。心身に障害をもつ人に対する理解と関心を深め、みんなが参加し、みんなが平等に暮らせるよりよい社会づくりをしようとする年。「国際障害者年」にあつて、みんなが考えましよう。

自転車のマナー

簡単に乗れる自転車は、ひとつまちがえば命をおとす危険な乗り物です。あいかかわる悪い交通マナーを、何度か目撃して冷や汗が。何か良い方法はないものでしょうか。

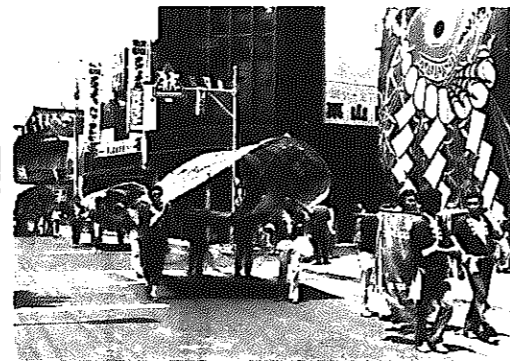
私の健康法

食事療法や、ユニークなトレーニング方法や体力づくりなどあなたが実施している自慢の健康法を、紹介してください。これから始めようとしているみなさんのお役にたてるはずですよ。

暮らしの見直し

冠婚葬祭や慶弔の贈り物とお返しなどの簡素化は、皆さんが良いことだと知りながらも、なかなかその実行ができません。一部地域では実行しているところもあるとか。虚礼廃止にむけてのあなたの意見をお寄せください。

くり広げられた合戦絵巻 大風優勝は本新蝶組



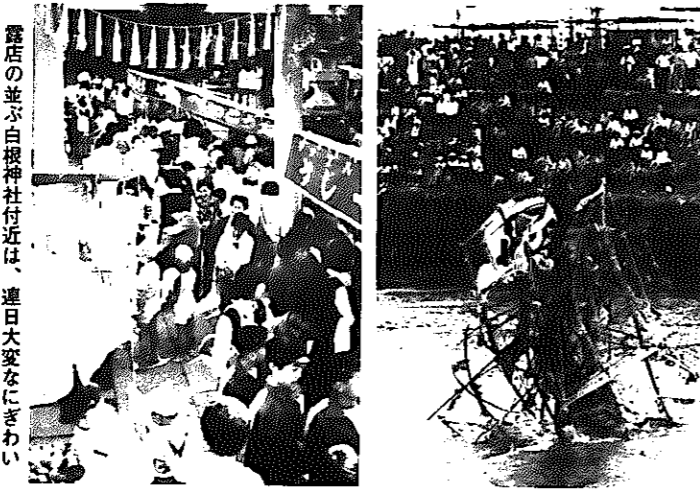
飾り大風の前を、堂々と市中パレード



大風の立ち上がりは、すさまじい迫力です

【大風合戦成績】
大風の部 優勝=本新蝶組 2位=だるま組 3位=桃太郎組 技能 優勝=北若組 2位=本新蝶組、日吉丸組、達摩組、鯛町組 3位=桜蝶組ほか5組
巻風の部 優勝=山崎ヒューム管 2位=吉運堂 3位=わらじ会 技能 優勝=山崎ヒューム管 2位=協栄建設 3位=山崎運輸

【子供大風合戦成績】
優勝=加藤清正(南新町) 2位=鯛町(魚町) 3位=弁慶(諏訪木、水道町、日の出町・砂押連合)、桜蝶(桜町)
風合戦協会会長賞=和唐内(白根小A) 技能賞=鯛町、弁慶



露店の並ぶ白根神社付近は、連日大変な賑わい

大風の引き合い

まちの話題

泥んこになって 楽しい田植え

五月晴れの五月二十三日、大通小学校(中林一朗校長)では全校一斉田植えを行いました。周辺に広がる水田を教材に、農業への理解、労働意欲の向上を図ろうと、昨年からはじめたものです。学校田は、PTA役員らの好意で無償提供された十何苗の植え方を教わったあと、全員が裸足になって田の中へ。ワイワイガヤガヤ、泥んこになって楽しんで田植えでした。



今年、出品総数は二百七点と例年になく多く、盛り上がりしました。入場者数も約一千人と連日たくさん市民でにぎわっていました。来年はもっと大きな市展に育て上げたいものです。

出品数入場者数とも増 加し盛り上がった市展

六月四日から八日まで産業厚生会館で、第九回市美術展覧会が開催されました。

今年、出品総数は二百七点と例年になく多く、盛り上がりしました。入場者数も約一千人と連日たくさん市民でにぎわっていました。来年はもっと大きな市展に育て上げたいものです。



佐々木信也さんが中学生に野球教室

佐々木信也さんが中学生に野球教室

プロ野球評論家の佐々木信也さんが、五月二十三日に来市。白根第一中学校グラウンドで市内と味方村、鴻東村の中学生を集め、野球教室を開きました。これは白根ロータリークラブ(田巻信司会長)が企画したもので、佐々木杯の奇蹟のあと、ハンドマイク片手にユーモアを交えながらのコーチ。実際に守備につかせて、適切な指導を与えていました。



白根管内交通事故 (五月末現在) 人身事故件数 三十九件 死者 三人 負傷者 四十六人 一人でも まちますきちんと発信号



六月末まで常設の緑花木展示即売場で、五月三十一日から六月七日まで「さつきまつり」が開催されました。

中央公民館へ 白根ロータリークラブ

白根管内交通事故 (五月末現在) 人身事故件数 三十九件 死者 三人 負傷者 四十六人 一人でも まちますきちんと発信号

白根管内交通事故 (五月末現在) 人身事故件数 三十九件 死者 三人 負傷者 四十六人 一人でも まちますきちんと発信号